

小牧山新管理道設置工事とその周辺の史跡整備について

●目的

小牧市では、平成11年に策定した『史跡小牧山整備計画基本構想』の中で、史跡小牧山を整備する際には、織田信雄・徳川家康連合軍によって改修を受けた小牧・長久手の合戦時（天正期）の遺構を復元することを基本方針としています。平成28年度に整備が完了した小牧市役所旧本庁舎跡地においても、この方針に基づき天正期の土塁や堀などの遺構を復元・整備しましたが、本来この土塁や堀はさらに東側へ続いていたものが、既設管理道により分断されている状態であると考えられます。

このため、既設管理道を廃止し、小牧山を天正期当時の姿に近付けることを目的として、小牧山南麓の遺構（土塁・堀）を復元・整備していきます。

●整備の考え方

- ・現在、既設管理道は、小牧山の発掘調査や整備工事、樹木の管理、歴史館への資材等の搬入、緊急時などに車両が通行するために利用しています。
- ・しかしながら既設管理道の築造の際に分断された土塁や堀の復元に伴い既設管理道を廃止すると、上記の利用ができなくなります。
- ・このため、昭和2年に測量された地形測量図と発掘調査結果の検討により、昭和2年当時の通路位置に管理道を付け替えることが望ましいと考えました。
- ・具体的な位置は、(仮称)史跡センターの南から西を通り、桜の馬場へ至る位置に設置します。
- ・新管理道の完成後、既設管理道の撤去にあわせて発掘調査を行った後、既設管理道により分断された土塁や堀を接続する史跡整備を行います。

〔参 考〕

■昭和2年地形測量図を小牧山整備の参考とする理由

小牧山は江戸時代、尾張徳川家により、徳川家康が戦いに勝利した場所として一般人の入山を禁止するなど、手厚い保護を受けてきました。このため、昭和以後に実施された市役所本庁舎、小牧市歴史館、小牧中学校等の建設を除けば大きな地形の改変を受けることなく、天正期当時の姿を多く残していると考えられます。

昭和2年地形測量図は、これらの改変を受ける以前の小牧山の状況を伝えるものと考えられるため、小牧山の遺構の復元・整備における貴重な資料として活用しています。